

住居に関連した日常災害の分析

— 新聞を媒体とした場合 —

日本女家政 石川孝重 ○寺倉静

目的 本報告は、住居内あるいは住居に関わる災害の中でも、いわゆる日常災害に注目している。日常災害は、人為的な原因によっておこる災害であり、人間の生活・技術・経済などに関わりをもつことが多い。今回は、日常災害のなかでも特に重大である生命に関わるものを中心に、新聞の記事からあらい出しを行い、それらを類型化するとともに、その分析からその動向を把握し、現時点における日常災害に対処するための留意点を明らかにする。

方法 昭和23年8月から昭和62年9月までの朝日新聞縮刷版の記事から、外壁の一部の落下現象や、住居等の内部で起こる災害すべてを抽出し、それらを資料にして年代ごとの災害の傾向を調べ、その要因と当時の社会状況とを比較対照している。

結果・考察 日常災害の主なものは、床や天井の落下事故、窓やベランダからの墜落事故、エレベーターやエスカレーターの事故、および乳幼児の家庭内の事故であり、これら災害のあらわれ方は年代によって多少異なっている。戦後の日常災害を時間的な流れでとらえるとそれらの災害の性格により3期に分けることができる。第1期は、戦後間もない頃で、建築物自体が貧弱であり、老朽化している時期でもある。第2期は、高度経済成長期であり、多くの機械類が開発され、住宅が高層化され始めたが、その一方でそれらの安全性がまだ完全には保証されていない時期である。第3期は、それらへの対策が大きく進展し、安全性が高まってはきたが、今度は使用者側の安全に対する配慮の不足が問題となってきた時期である。これは現在においても引き続いていえることである。